

本堂 国宝

この壮麗な長谷寺の本堂は、初瀬山の南側の急斜面に建てられており、この寺の本尊である十一面観音像が祀られている。1650年に江戸幕府の3代将軍徳川家光によって再建された本堂は、この種の建物としては奈良県内で最大の規模のもののひとつである。日本風の「入母屋造」と呼ばれる屋根の構造と、幅が16.3メートルある縁側を特徴としている。縁側からはパノラマの眺めが楽しめる。本堂は、参拝者のための礼拝の場所である外陣と、僧侶のための一段高くなったエリアである正堂からなっている。

1,000年以上にわたって継承されてきた儀式として、毎朝、僧が正堂に集まり、読経を行う。その声は下の谷間に反響する。この儀式は、ここを訪れる旅行者たちに強い印象を与える。旅行者もこの儀式に加わることができる。千年以上にわたって受け継がれてきたもうひとつのしきたりが、法螺貝吹きである。僧たちは毎日正午に、本堂の隣にある鐘楼に立ち、大きな貝殻である法螺貝をトランペットのように吹き鳴らす。